

No.	6
コード	RT02-b
開講形式	リモート
区分	養蜂学
科目	周辺配慮，労働災害防止，農薬・鳥獣害
講師	中村純
背景	養蜂を行うことで発生し、他者に影響を与える諸問題は、養蜂の負の側面でもあり、養蜂家自身が当事者となって解決の道を探る必要がある。
目的	養蜂そのものが被害を受ける者、養蜂家自身の生命に係わるもの、周囲の他者に影響を与えるものなど多様な問題が発生するが、具体的にどのような状況で各種のトラブルが起き、どのように解決できるかを学ぶ。
概要	養蜂が行われている場所周辺では刺害への不安、糞害などが行政への相談件数としても多い。また養蜂家自身の刺針によるトラブルも発生数が多い。また周辺の農家が使用する農薬による薬害、クマによる獣害など、養蜂家だけでは解決が困難な問題も多い。解決のための道筋もそれぞれ大きく異なる。
到達目標	・自分が養蜂を行う場所の周辺住民との間で起きるトラブルを把握する（周辺住民のすべてがミツバチを好きなわけではないことを理解できる）。 ・農薬被害については正しい認識を持ち、周辺農家との関係性の維持が重要であることを理解できる。 ・自分自身におよぶ問題について、予防と発生時の対策を構築しておく。
講義内容	刺害への不安について（ミツバチだけではない刺害） 糞害はなぜ起こるのか、起きた場合の対処について（糞害を防ぐ唯一の手段は蜂群の撤去である） 農薬被害とは何か、その被害の原因が農薬であることの証明は難しい クマによる養蜂被害とその防止策 養蜂現場で起こる労働災害について（刺針事故とエピペン処方） 病群の放置が起こす大きな問題 ミツバチの飼養者はミツバチが起こすすべての事象について責任を負う
参考資料	「クマによる養蜂被害防除」

